ICOM

取扱説明書[活用編]

WAVEMASTER®

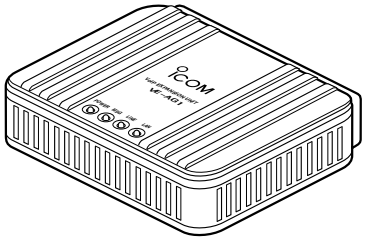
VoIP EXPANSION UNIT

VE-AG1

各章について

各メニューの設定画面について説明しています。
設定画面は、用途別に下記の各メニューに分類されています。

参照ページ	メニュー名など	
5 ページ ☞	電話設定	1
19 ページ ☞	ネットワーク設定	2
23 ページ ☞	システム設定	3
31 ページ ☞	情報表示	4
33 ページ ☞	メンテナンス	5
39 ページ ☞	ご参考に	6



Icom Inc.

はじめに

本書は、WWWブラウザで表示される本製品の設定画面で設定できるさまざまな機能について、メニューごとに詳しく説明しています。
取扱説明書[導入編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「　」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「」)で囲んで表記します。

[　] 表記：各設定画面の設定項目名を([ ])で囲んで表記します。

〈　〉表記：設定画面上にあるコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows Vista™ Home Basic、Microsoft® Windows Vista™ Home Premium、Microsoft® Windows Vista™ BusinessおよびMicrosoft® Windows Vista™ Ultimateは、Windows Vistaと表記します。
Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。
Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。
Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。
Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。

※本書は、Ver.2.05のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

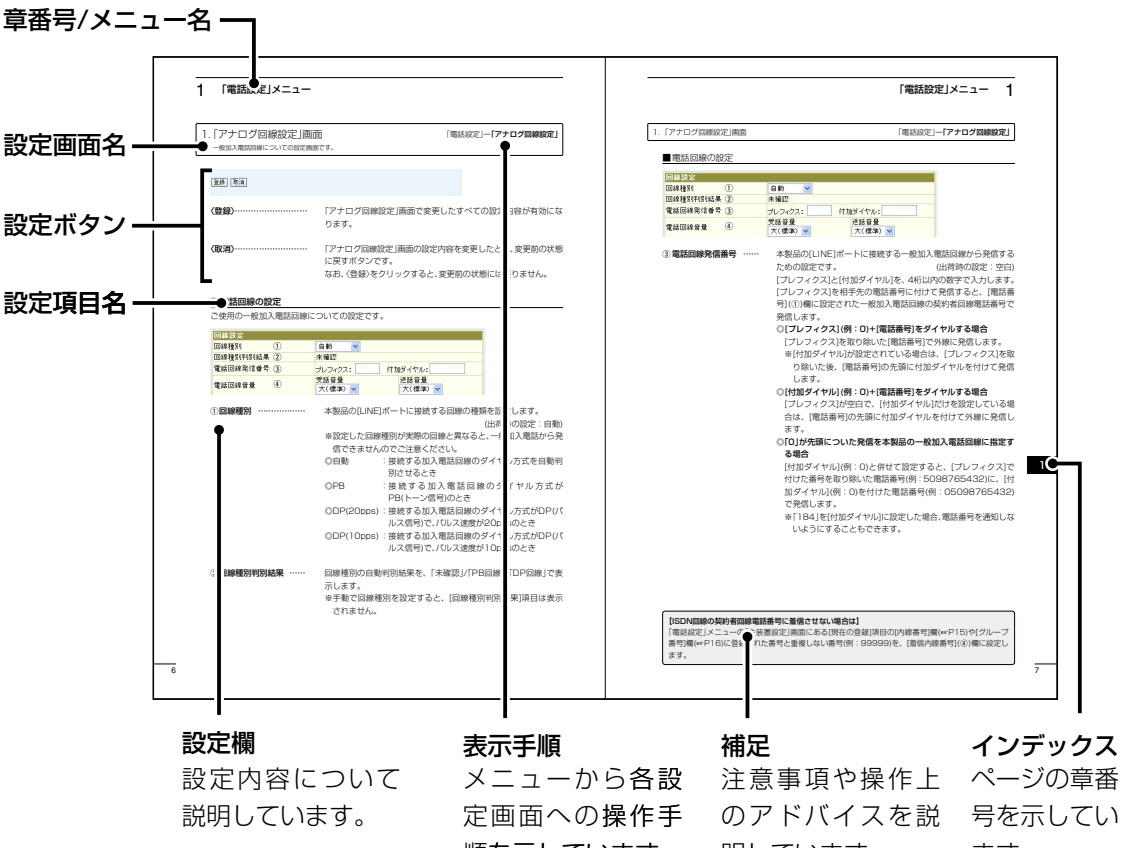
※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icom は、アイコム株式会社の登録商標です。
WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Adobe、Adobeロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

各ページの構成について

本書は、次のような構成で説明しています。



設定欄
設定内容について説明しています。

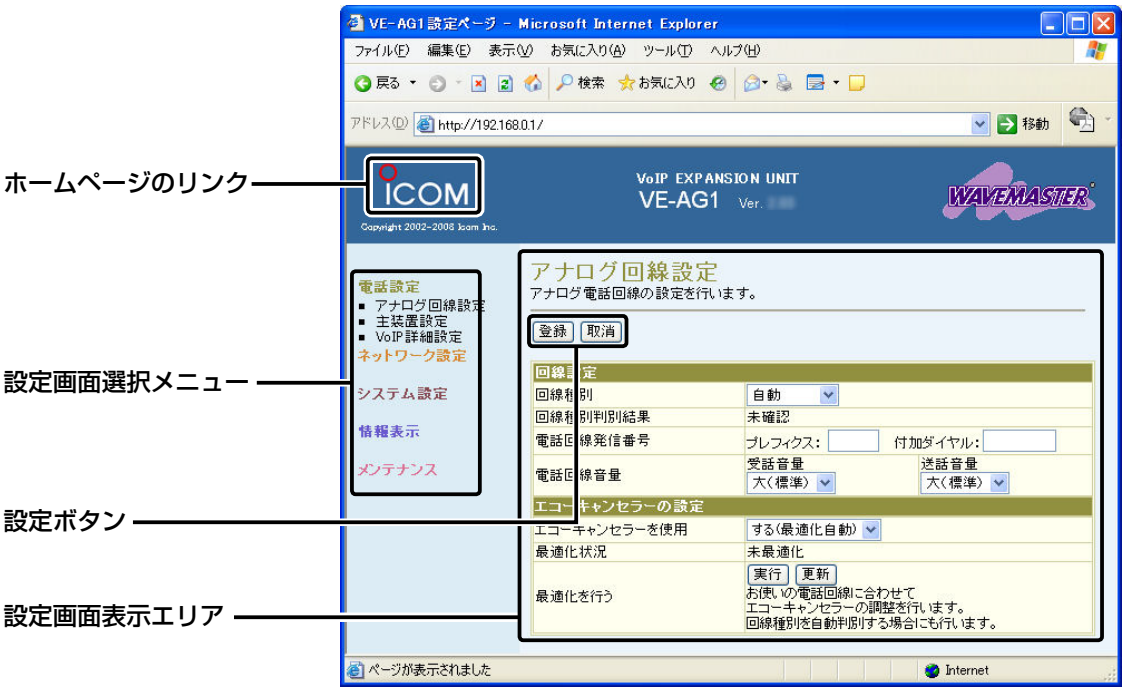
表示手順
メニューから各設定画面への操作手順を示しています。

補足
注意事項や操作上のアドバイスを説明しています。

インデックス
ページの章番号を示しています。

設定画面の名称と機能について

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、本書54ページをご覧ください。



設定画面選択メニュー

各設定画面を用途別に、メニューとしてまとめています。
メニュー名をクリックすると、各設定画面へのリンクを表示します。

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面を表示します。

ホームページのリンク

インターネットに接続できる環境で、アイコムロゴをクリックすると、弊社のホームページを閲覧できます。

設定ボタン

設定した内容の登録や取り消しをします。
〈登録〉をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるとき、〈登録して再起動〉をクリックすると、画面上で確定された内容が有効になります。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

第 1 章

「電話設定」メニュー

この章では、
「電話設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

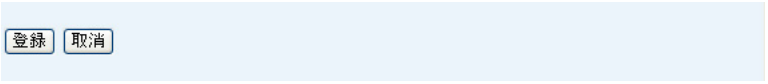
1.「アナログ回線設定」画面 …… 6
■ 電話回線の設定 …… 6
■ エコーキャンセラーの設定 …… 9
2.「主装置設定」画面 …… 10
■ 主装置設定 …… 10
3.「VoIP詳細設定」画面 …… 12
■ VoIP音質設定 …… 12
■ TOS設定 …… 14

1 「電話設定」メニュー

1.「アナログ回線設定」画面

「電話設定」ー「アナログ回線設定」

一般加入電話回線についての設定画面です。



〈登録〉…… 「アナログ回線設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「アナログ回線設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■電話回線の設定

ご使用の一般加入電話回線についての設定です。

①回線種別 …… 本製品の[LINE]ポートに接続する回線の種類を設定します。
(出荷時の設定：自動)
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、一般加入電話から発信できませんのでご注意ください。
◎自動 ：接続する加入電話回線のダイヤル方式を自動判別させるとき
◎PB ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps) ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps) ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

②回線種別判別結果 …… 回線種別の自動判別結果を、「未確認」/「PB回線」/「DP回線」で表示します。
※手動で回線種別を設定すると、[回線種別判別結果]項目は表示されません。

1.「アナログ回線設定」画面　　「電話設定」ー「アナログ回線設定」

■電話回線の設定

③ **電話回線発信番号** …… 本製品の[LINE]ポートに接続する一般加入電話回線から発信するための設定です。　(出荷時の設定：空白)
[プレフィクス]と[付加ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。
[プレフィクス]を相手先の電話番号に付けて発信すると、[電話番号](①)欄に設定された一般加入電話回線の契約者回線電話番号で発信します。

◎**[プレフィクス](例：0)+[電話番号]をダイヤルする場合**
[プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で外線に発信します。
※[付加ダイヤル]が設定されている場合は、[プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

◎**[付加ダイヤル](例：0)+[電話番号]をダイヤルする場合**
[プレフィクス]が空白で、[付加ダイヤル]だけを設定している場合は、[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて外線に発信します。

◎**「0」が先頭についた発信を本製品の一般加入電話回線に指定する場合**
[付加ダイヤル](例：0)と併せて設定すると、[プレフィクス]で付けた番号を取り除いた電話番号(例：5098765432)に、[付加ダイヤル](例：0)を付けた電話番号(例：05098765432)で発信します。
※「184」を[付加ダイヤル]に設定した場合、電話番号を通知しないようにすることもできます。

【番号非通知での発信について】
弊社製VoIP機器(AP-5100VoIPなど)側で設定された商用IP電話接続事業者によっては、正常に発信されない場合があるため、弊社製VoIP機器側の「SIP設定」画面にある[SIPサーバ接続設定]項目の「サーバ発信プレフィクス(置換ダイヤル)」を必ず設定してください。
※弊社製VoIP機器側で[置換ダイヤル]を設定したときは、本製品の[電話回線発信番号](③)欄の[プレフィクス]に同じ番号を設定してください。

1 「電話設定」メニュー

1.「アナログ回線設定」画面　　「電話設定」ー「アナログ回線設定」

■電話回線の設定

④**電話回線音量** …… **【受話音量】**：一般加入電話回線で使用時、自分の受話器に聞こえる音量を、「最大」、「大(標準)」、「中」、「小」、「最小」から設定します。　(出荷時の設定：大(標準))

【送話音量】：一般加入電話回線で使用時、相手の受話器に聞こえる音量を、「最大」、「大(標準)」、「中」、「小」、「最小」から設定します。　(出荷時の設定：大(標準))

1.「アナログ回線設定」画面　　「電話設定」ー「アナログ回線設定」

■エコーキャンセラーの設定

本製品で使用するアナログ回線のエコー(反響)について設定します。

①エコーキャンセラーを使用 ……

ご使用のアナログ回線に合わせて、本製品のエコーキャンセラー機能を最適化します。　(出荷時の設定：する(最適化自動))

※最適化には、約30秒かかります。

※回線種別(☞P7)を「自動」に設定しているときは、回線種別の自動判別も最適化と同時に動作します。

◎する(最適化自動)　：

本製品の電源投入時、または回線を接続していない状態が約30秒以上経過後に回線を接続すると、自動的に最適化されます。

通常は、「する(最適化自動)」を選択してください。

◎する(最適化手動)　：

[最適化を行う]欄の〈実行〉をクリックするまで最適化されません。

※回線種別(☞P7)を「自動」に設定しているときは、自動的に最適化されます。

※自動的に最適化しない場合は、回線種別(☞P7)をお使いの回線に応じて、「自動」以外に変更してください。

◎しない：

本製品のエコーキャンセラー機能を無効にします。

※回線種別(☞P7)を「自動」に設定しているときには、最適化の動作をしますが、本製品のエコーキャンセラー機能は無効となります。

②最適化状況 ……

回線への最適化状況を、「未最適化」/「最適化中」/「最適化終了」/「最適化失敗」で表示します。

③最適化を行う ……

〈実行〉

手動で最適化するとき、クリックします。

〈更新〉

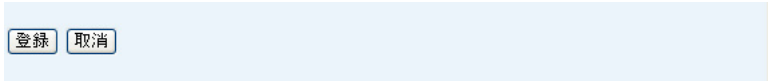
現在の最適化状況を更新するとき、クリックします。

※クリックしても[最適化状況]欄に「最適化失敗」と表示された場合は、回線の接続などをご確認ください。

2.「主装置設定」画面

「電話設定」ー「主装置設定」

弊社製VoIP機器から本製品に接続するための設定画面です。



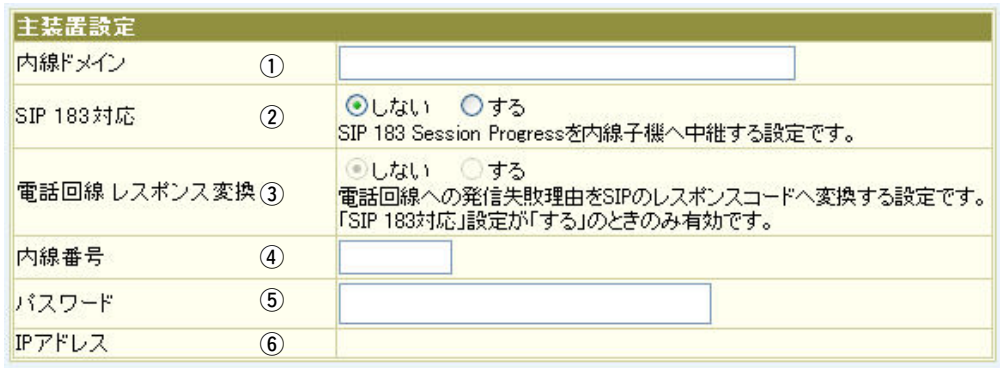
〈登録〉…… 「主装置設定」画面の[主装置設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「主装置設定」画面にある[主装置設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■主装置設定

本製品の子機として、弊社製VoIP機器側の[SIPサーバ接続設定]項目★に登録された[SIPサービスドメイン(SIPドメイン)]と[パスワード]を設定します。

★弊社製VoIP機器側にある[SIPサーバ接続設定]項目の設定例については、本製品の取扱説明書[導入編]をご覧ください。

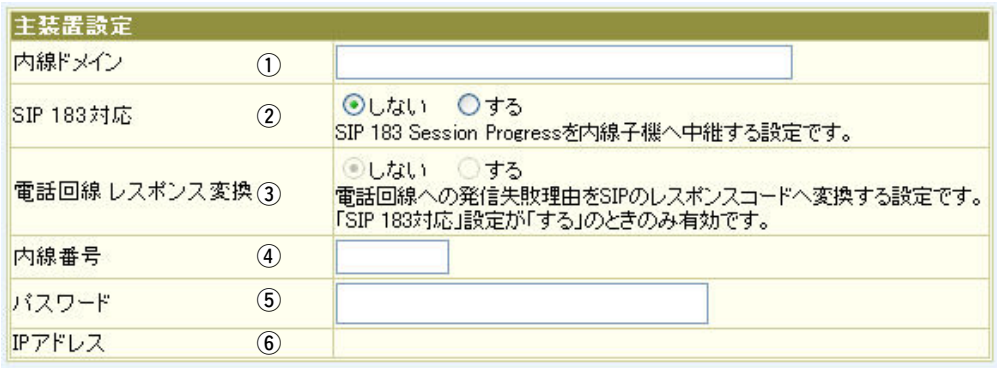


① 内線ドメイン …… 本製品と弊社製VoIP機器(AP-5100VoIP、VR-6030)が共通で使用するドメイン名を任意に設定します。
入力は、任意の半角英数字63文字までです。
※弊社製VoIP機器側の内線ドメインと異なる内容を設定してください。
※弊社製VoIP機器側には、ここで設定した内線ドメインを本製品に接続するためのSIPサービスドメインとして登録します。

② SIP 183対応 …… SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、呼出中の状態で、通話を開始せずに「おかけになった電話番号は、現在使われておりません。」などの自動音声ガイダンス(トーキー)を聞けるようになります。

2.「主装置設定」画面　　「電話設定」ー**「主装置設定」**

■主装置設定



③ 電話回線レスポンス変換 ……

一般加入電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードに変換する設定です。
[SIP 183対応](②)欄で、「する」を設定に設定したとき有効な機能です。

④ 内線番号 ……

本製品の子機として接続された弊社製VoIP機器側の[SIPサーバ接続設定]項目に[IP電話番号(アカウントID)]と[ユーザーID]として登録する内容を内線番号として設定します。
入力は、半角英数字７桁までです。
※弊社製VoIP機器側で設定した電話機の内線番号と重複しないようにご注意ください。

⑤ パスワード ……

弊社製VoIP機器が本製品に接続するためのパスワードを設定します。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」、または「●(黒丸)」で表示されます。
※弊社製VoIP機器側には、ここで設定したパスワードを[SIPサーバ接続設定]項目の[パスワード]欄に登録します。

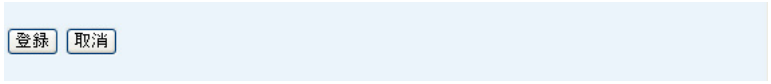
⑥ IPアドレス ……

弊社製VoIP機器から本製品への接続が完了すると、弊社製VoIP機器のIPアドレスを表示します。
※本製品や弊社製VoIP機器側の設定不備や変更が原因で接続できていないときは、空白(表示なし)になります。

3.「VoIP詳細設定」画面

「電話設定」ー**「VoIP詳細設定」**

IP電話の音質についての設定です。



〈登録〉…… 「VoIP詳細設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「VoIP詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■VoIP音質設定

本製品の[LINE]ポートから発信されるIP電話の音声について設定します。

① 音声符号化方式 …… IP電話で、発信するときの音質についての設定です。
(出荷時の設定：両方使用(G.711を優先))

※着信は、この設定に関係しません。

◎G.711のみ使用 ：G.711を発信に使用します。
通話相手がG.711を発信できないときは通話できません。

◎G.729のみ使用 ：G.729を発信に使用します。
通話相手がG.729を発信できないときは通話できません。

◎両方使用(G.711を優先)：通常G.711を発信に使用しますが、通話相手がG.711を発信できないときはG.729を使用します。

◎両方使用(G.729を優先)：通常G.729を発信に使用しますが、通話相手がG.729を発信できないときはG.711を使用します。

3.「VoIP詳細設定」画面　　「電話設定」ー「VoIP詳細設定」

■VoIP音質設定

VoIP音質設定			
音声符号化方式	①	両方使用(G.711を優先)	
フレーム時間	②	G.711	20ms
		G.729	20ms
受信バッファ	③	50ms	

① 音声符号化方式(つづき)

【G.711について】
音声を圧縮しないので、音質の劣化が少ない特徴がありますが、高速回線が必要です。

【G.729について】
G.729の規格には、G.729A(音声符号化の効率化)とG.729B(音声符号化の効率化と無音圧縮)があります。
本製品やAP-5100VoIPには、G.729Aが搭載されています。

② **フレーム時間** ……

発信時、設定された音声符号化方式での1フレームの長さを時間で設定します。　(出荷時の設定：20ms)
設定した時間が短いほど遅延は少なくなりますが、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
使用される音声符号化方式に応じて、「G.711」欄または「G.729」欄で設定した時間のフレーム長で発信します。

③ **受信バッファ** ……

音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定：50ms)
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

3.「VoIP詳細設定」画面　　「電話設定」ー「VoIP詳細設定」

■TOS設定

SIPサーバを使用したIP電話で、VoIPパケットを優先的にIP網へ送出する機能を設定します。
本製品のQoS機能を使用、またはIP-VPN回線サービスの音声優先制御機能を利用するときなど、社内ネットワーク等で、TOS(Type-Of-Service)を使用する場合に関係します。

使用しない設定時

TOS設定				
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv		

TOS設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない ◉TOS ○Diffserv		
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0	16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定			
TOS種別	①	○使用しない ○TOS ◉Diffserv	
メディア(RTP)	②	DSCP 56	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48	16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

①TOS種別 ……　本製品のTOS機能について設定します。　(出荷時の設定：TOS)
種別を選択し、「VoIP詳細設定」画面の〈登録〉をクリックすると、該当する設定項目を表示します。
◎使用しない：
TOSを使用しないネットワークに該当します。
◎TOS：
TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、「1～3」ビットを優先度、「4～7」ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの「1」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

(☞次ページにつづく)

【TOS設定時の16進数表記】
出荷時の呼制御(SIP)に設定された設定値を2進数で表示すると、優先度(110)、サービスタイプ(0000)、未使用フィールド(0)なので「11000000」の16進表記は、「C0」となります。

3.「VoIP詳細設定」画面　　「電話設定」ー「VoIP詳細設定」

■TOS設定

使用しない設定時

TOS設定			
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv	

TOS設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない ◉TOS ○Diffserv		
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0	16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定			
TOS種別	①	○使用しない ○TOS ◉Diffserv	
メディア(RTP)	②	DSCP 56	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48	16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

① TOS種別(つづき) ……　◎Diffserv：

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

「1～6」ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

残りの「2」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。

【Diffserv設定時の16進数表記】

出荷時の呼制御(SIP)に設定された設定値を2進数で表示すると、DSCP(110000)、未使用フィールド(00)なので、「11000000」の16進数表記は、「C0」となります。

3.「VoIP詳細設定」画面　「電話設定」ー「VoIP詳細設定」

■TOS設定

使用しない設定時

TOS設定		
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv

TOS設定時

TOS設定					
TOS種別	①	○使用しない	◉TOS	○Diffserv	
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0		16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない	○TOS	◉Diffserv
メディア(RTP)	②	DSCP 56		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48		16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

② メディア(RTP) …… TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度：
TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：7)
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ：
TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。(出荷時の設定：0)

◎DSCP：
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。
(出荷時の設定：56)

3.「VoIP詳細設定」画面　　「電話設定」ー「VoIP詳細設定」

■TOS設定

使用しない設定時

TOS設定		
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv

TOS設定時

TOS設定					
TOS種別	①	○使用しない	◉TOS	○Diffserv	
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0		16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない	○TOS	◉Diffserv
メディア(RTP)	②	DSCP 56		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48		16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

③ 呼制御(SIP)…… TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度：
TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：6)
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ：
TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。(出荷時の設定：0)

◎DSCP：
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。
(出荷時の設定：48)

「ネットワーク設定」メニュー

第 2 章

この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

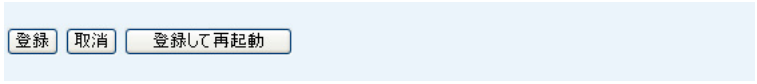
1.「本体IP設定」画面 …… 20
■ 本体名称/IPアドレス設定 …… 20

2 「ネットワーク設定」メニュー

1.「本体IP設定」画面

「ネットワーク設定」ー「本体IP設定」

本製品をネットワークに接続するための設定画面です。



〈登録〉…… 「本体IP設定」画面で設定した内容が確定されます。
※「再起動が必要な項目が変更されています。」と画面上に表示されているときは、〈登録して再起動〉をクリックするまで設定内容が有効になりません。

〈取消〉…… 「本体IP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、「本体IP設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

■本体名称/IPアドレス設定

本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

①本体名称 …… ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
(出荷時の設定：VE-AG1)
ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、a～z、0～9、－)、31文字以内で設定します。
※登録できない文字は、「＃ ％ / ： ？ @ ￥ ` 」の8種類です。

②IPアドレス …… 本製品のIPアドレスを設定します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
※ここで設定したIPアドレスは、SIPサーバのIPアドレスとして弊社製VoIP機器側の[SIPサーバ接続設定]項目に入力します。

1.「本体IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「本体IP設定」**

■本体名称/IPアドレス設定

本体名称／IPアドレス設定		
本体名称	①	VE-AG1
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	④	

③サブネットマスク ……　本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。　(出荷時の設定：255.255.255.0)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
[例]
サブネットマスクを「255.255.255.248」に設定すると、同じネットワークで使用するIPアドレスは、「192.168.0.0～192.168.0.7」の範囲になります。
この場合、端末に割り当てできるIPアドレスは、「192.168.0.2～192.168.0.6」です。
なお、端末に割り当てできないIPアドレスは次のようになります。
「192.168.0.0」：ネットワークアドレス
「192.168.0.1」：本製品のLAN側IPアドレス
「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

④デフォルトゲートウェイ　本製品とネットワーク部が異なる接続先と通信する場合に必要なデフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力します。
※本製品と同じIPアドレスは登録できません。

「システム設定」メニュー

第 3 章

この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

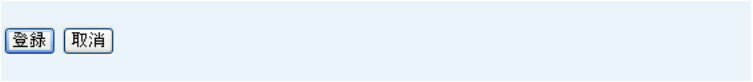
1.「本体管理設定」画面 …… 24
■ 管理者ID設定 …… 24
■ 管理者IPアドレス …… 25
2.「時計設定」画面 …… 26
■ 内部時計設定 …… 26
■ 自動時計設定 …… 27
3.「SYSLOG設定」画面 …… 28
■ SYSLOG設定 …… 28
4.「SNMP設定」画面 …… 29
■ SNMP設定 …… 29

3 「システム設定」メニュー

1.「本体管理設定」画面

「システム設定」ー**「本体管理設定」**

管理者IDなどを設定するための設定画面です。

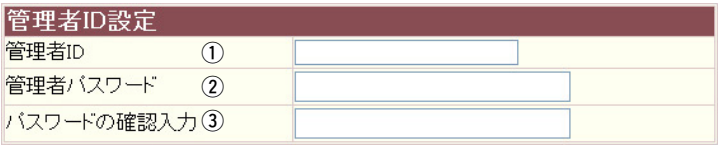


〈登録〉…… 「本体管理設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

〈取消〉…… 「本体管理設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻します。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■管理者ID設定

本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。



① 管理者ID …… 本製品の設定画面へのアクセスを制限するために、管理者としての名前を設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。 (入力例：ICOM)
※「：(コロン)」は、入力できませんのでご注意ください。
※[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。

② 管理者パスワード …… [管理者ID]に対するパスワードを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」、または「●(黒丸)」で表示されます。
※[管理者パスワード]を設定すると、次回アクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。

③ 確認入力 …… 確認のために、管理者パスワードを再入力します。

【ご注意】
管理者パスワードを忘れた場合、設定を確認できなくなりますのでご注意ください。
※管理者パスワードを忘れると、設定を工場出荷時(初期化)の状態に戻していただくことになります。
初期化のしかたについて詳しくは、別紙の「ご注意と保守について」をご覧ください。

1.「本体管理設定」画面　　「システム設定」ー**「本体管理設定」**

■管理者IPアドレス

本製品の設定画面へのアクセスをIPアドレスで制限する設定です。

管理者IP1～3……　本製品の設定画面へのアクセスを制限するために、本製品にアクセスを許可する端末のIPアドレスを3台まで登録できます。

(入力例：192.168.0.5)

※[管理者IP]を設定すると、IPアドレスが登録された端末以外は、次回のアクセスから本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

※空白の場合は、本製品に接続するすべての端末が設定画面にアクセスできます。

2.「時計設定」画面

「システム設定」ー**「時計設定」**

本製品の内部時計についての設定画面です。

〈登録〉…… 「時計設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「時計設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■内部時計設定

本製品の内部時計を設定します。

① 本体の時刻 …… 本製品に設定されている時刻を表示します。
※〈時刻設定〉をクリックすると、本製品を初期化しても自動時計が設定されています。

② 設定する時刻 …… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を、最初に表示します。
※WWWブラウザの〈更新〉をクリックすると、端末の時計設定を取得して表示します。

③〈時刻設定〉 …… [設定する時刻](②)欄に表示された時刻を本製品に設定するボタンです。
時刻を設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスしなおしてから、〈時刻設定〉をクリックしてください。

2.「時計設定」画面　　「システム設定」ー**「時計設定」**

■自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	○しない ◉する
NTPサーバ1 IPアドレス	②	133.100.9.2
NTPサーバ2 IPアドレス	③	
アクセス時間間隔	④	1 日
前回アクセス日時	⑤	----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 00:00

① 自動時計設定を使用 …　本製品の自動時計設定機能を設定します。　(出荷時の設定：**する**)
「する」に設定すると、インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。

② NTPサーバ1 IPアドレス ……　最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：133.100.9.2)

③ NTPサーバ2 IPアドレス ……　[NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
※返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。

④ アクセス時間間隔 ……　タイムサーバにアクセスする間隔を設定します。
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。　(出荷時の設定：1)
「0」を設定すると、問い合わせをしません。
回線に手動で接続したとき、前回アクセスした日から設定した日数が経過しているときは、接続時にタイムサーバにアクセスします。
回線への常時接続を設定しているときは、設定した日数にしたがってアクセスします。

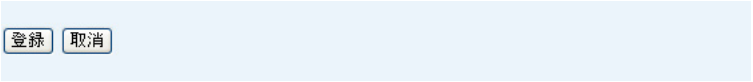
⑤ 前回アクセス日時 ……　タイムサーバにアクセスした日時を表示します。

⑥ 次回アクセス日時 ……　タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時](⑤)欄と[アクセス時間間隔](④)欄で設定された日数より算出して表示します。

3.「SYSLOG設定」画面

「システム設定」ー**「SYSLOG設定」**

SYSLOG機能についての設定画面です。



〈登録〉…… 「SYSLOG節定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「SYSLOG設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■SYSLOG設定

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。

SYSLOG設定		
DEBUGを使用	①	◉しない ○する
INFOを使用	②	◉しない ○する
NOTICEを使用	③	○しない ◉する
ホストアドレス	④	
ファシリティ	⑤	1

① DEBUGを使用 …… 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：しない)

② INFOを使用…… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：**しない**)

③ NOTICEを使用 …… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：する)

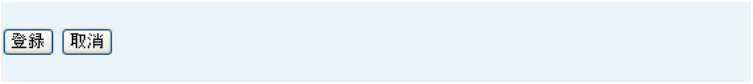
④ ホストアドレス …… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ ファシリティ …… SYSLOGのファシリティを入力します。 (出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。
※通常「1」を使用します。

4.「SNMP設定」画面

「システム設定」ー**「SNMP設定」**

SNMP機能についての設定画面です。



〈登録〉……　「SNMP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　「SNMP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、**〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。**

■SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから情報を自動的に収集してネットワーク管理するときの設定です。

① SNMP設定を使用 ……　本製品のSNMP機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。

② コミュニティ ID(GET)　本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを入力します。　(出荷時の設定：public)
半角31文字以内の英数字で入力します。

③ コミュニティ ID(SET)　本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から変更することを許可するIDを入力します。　(出荷時の設定：private)
半角31文字以内の英数字で入力します。

第 4 章

「情報表示」メニュー

この章では、
「情報表示」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「電話通信記録」画面 …… 32
■ 電話通信記録 …… 32

4 「情報表示」メニュー

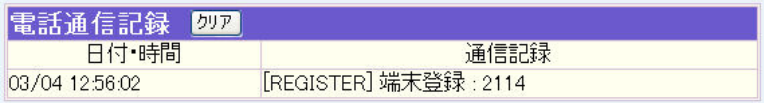
1.「電話通信記録」画面

「情報表示」ー**「電話通信記録」**

加入電話およびIP電話の発信と着信履歴を表示する画面です。

■電話通信記録

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。



※上図は、表示例です。

「メンテナンス」メニュー

第 5 章

この章では、
「メンテナンス」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「ファームウェアの更新」画面 …… 34
■ ファームウェアファイルを指定 …… 34
2.「設定初期化」画面 …… 35
■ 設定初期化 …… 35
3.「設定保存」画面 …… 36
■ 設定の保存と書き込み …… 36
■ 現在の設定の確認 …… 37

5 「メンテナンス」メニュー

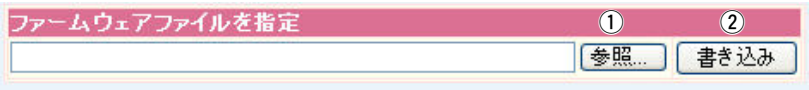
1.「ファームウェアの更新」画面

「メンテナンス」ー**「ファームウェアの更新」**

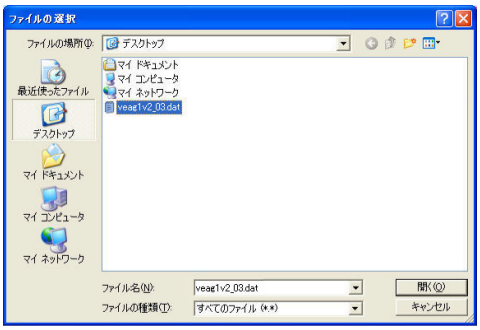
ファームウェアを更新する画面です。

■ファームウェアファイルを指定

パソコンに保存しているファームウェアファイルを指定して、ファームウェアをバージョンアップします。



①**〈参照...〉**…… クリックすると、下記の「ファイルの選択」画面を表示します。



「ファイルの選択」画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択したファイルとその階層が、[ファームウェアファイルの指定]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。
※[ファームウェアファイルの指定]項目のテキストボックスに直接入力しても指定できます。

②**〈書き込み〉** …… クリックすると、[ファームウェアファイルの指定]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子：dat)を本製品に書き込みます。
更新を開始すると、「ファームウェア更新中」と表示します。
※書き込み中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

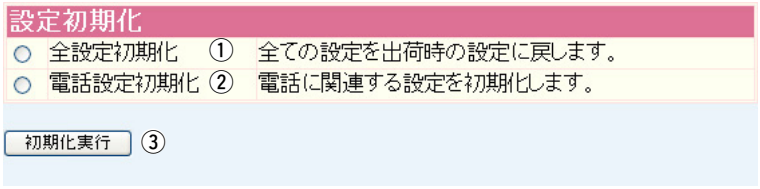
2.「設定初期化」画面

「メンテナンス」ー**「設定初期化」**

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻す画面です。

■設定初期化

選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。



① **全設定初期化** …… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

② **電話設定初期化** …… 「電話設定」メニューで設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。

③ **〈初期化実行〉** …… 選択された[初期化条件]にしたがって、初期化を実行します。

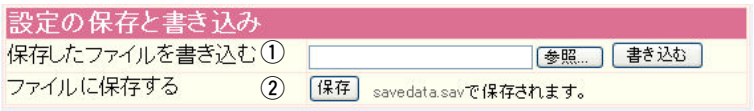
3.「設定保存」画面

「メンテナンス」ー**「設定保存」**

本製品の設定内容を保存する画面です。

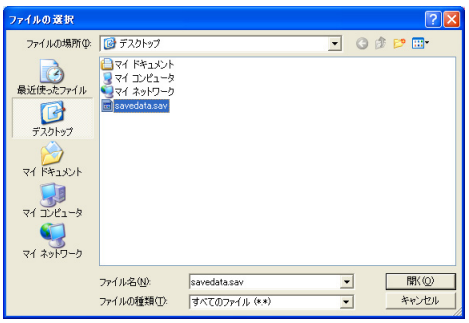
■設定の保存と書き込み

本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルを本製品に書き込んだりします。



①保存したファイルを書き込む ……

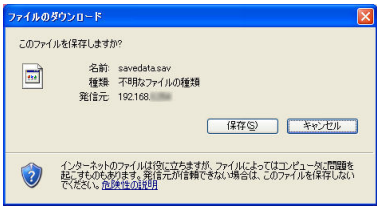
[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子：sav)内容を本製品に書き込むときに使用します。
設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉をクリックします。



上記の画面から目的の設定ファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
保存先をテキストボックスに指定後、〈書き込む〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

②ファイルに保存する …

本製品に設定されたすべての内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
[設定の保存と書き込み]項目で、〈保存〉をクリックすると表示される画面(☞右図)の〈保存(S)〉をクリックすると、設定ファイルを保存できます。
設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「sav」です。

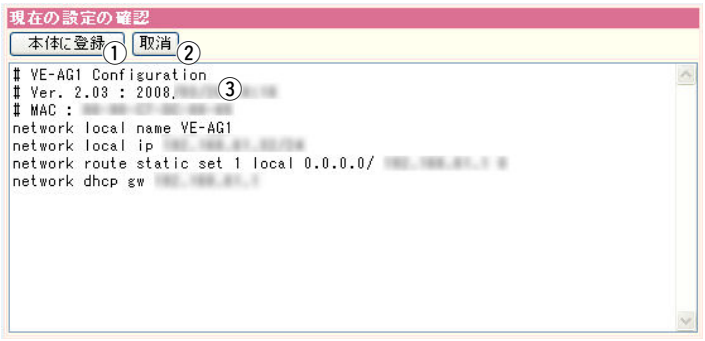


保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む](①)欄の操作で、本製品に書き込みできます。

3.「設定保存」画面　　「メンテナンス」ー**「設定保存」**

■現在の設定の確認

現在の基本的な設定と変更されている設定を表示します。



※管理者パスワードが設定されている場合は、その内容を暗号化して表示します。

①**〈本体に登録〉** …… 「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。
※[設定の保存と書き込み]項目(☞P36)の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイル(拡張子：.sav)は、このボタンを使用して書き込みできません。

②**〈取消〉** …… 「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③**「内容表示」部** …… 基本的な設定と初期値から変更された設定を表示します。
※この画面内容をパソコンに保存するときは、[設定の保存と書き込み]項目(☞P36)を使用してください。

ご参考に

第 6 章

この章では、
本製品の設定内容保存や初期化、ファームウェアのバージョンアップなどについて説明しています。

1. 設定画面へのアクセスを制限するには …… 40
■ 管理者IPアドレスを設定する …… 40
2. 設定内容の確認または保存 …… 41
■ 設定内容を保存する …… 41
3. 設定ファイルの内容を書き込むには …… 43
■ ファイルを書き込む …… 43
4. 設定を出荷時の状態に戻す …… 44
■ 初期化のしかた …… 44
5. ファームウェアをバージョンアップする …… 45
■ ファームウェアについて …… 45
■バージョンアップについてのご注意 …… 45
■ ファームウェアファイルを指定して更新する …… 46
6. 設定項目の初期値一覧 …… 47
7. 設定画面について …… 48
■ 設定画面の構成について …… 48
8. Telnetによる接続 …… 49
■ Windows 2000/XPの場合 …… 49
■ Windows 98/98 SE/Meの場合 …… 49
■ オンラインヘルプ …… 50

6 ご参考に

1. 設定画面へのアクセスを制限するには

「システム設定」ー**「本体管理設定」**

設定者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。

■管理者IPアドレスを設定する

設定者用の[管理者パスワード]、および[管理者IP]を設定することで、登録したIPアドレス以外の端末が、**本製品の設定画面にアクセスできなくなります。**

※設定者が使用する端末には、固定IPアドレスを設定してください。

1 本製品の設定画面にアクセス(☞導入編)します。

2 **「システム設定」**メニューの**[本体管理設定]**をクリックします。
「本体管理設定」画面を表示します。

3 管理者用に使用する端末のIPアドレスを**[管理者IPアドレス]**項目の**[管理者IP1]**欄に入力します。 (入力例：192.168.0.5)

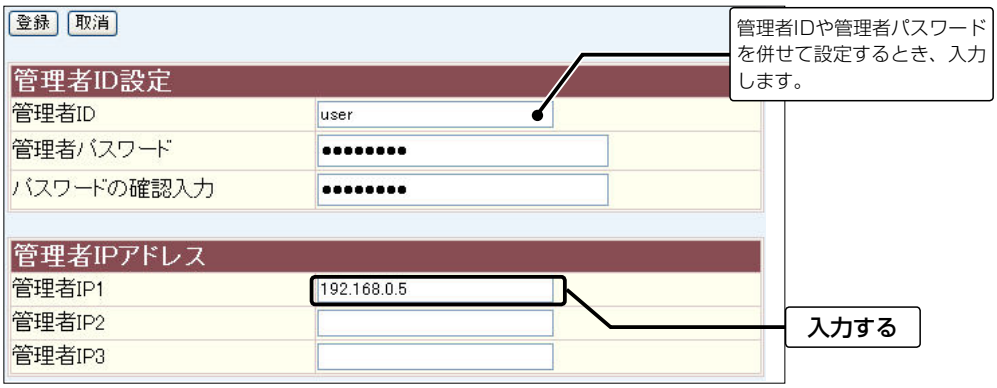
【管理者IDと併せて設定する場合】

管理者IDを任意の英数字(半角31文字以内)で[管理者ID設定]項目の[管理者ID]欄に入力します。
(入力例：user)

【管理者パスワードと併せて設定する場合】

管理者パスワードを任意の英数字(半角31文字以内)で[管理者ID設定]項目の[管理者パスワード]欄と[パスワードの確認入力]欄に入力します。 (入力例：userpass 表示例：●●●●●●●●)

※入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」、または「●(黒丸)」で表示されます。



4 **〈登録〉**をクリックすると、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を求める画面が表示されますので、ここで設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力します。

2. 設定内容の確認または保存

「メンテナンス」ー**「設定保存」**

本製品の設定画面で変更された内容の確認、または設定ファイルとして保存ができます。

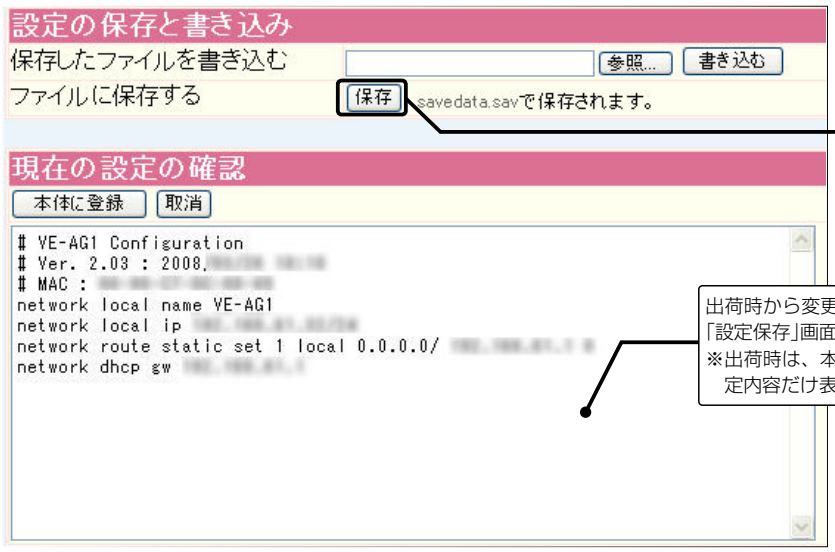
■設定内容を保存する

設定を保存しておくと、予期せぬ事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

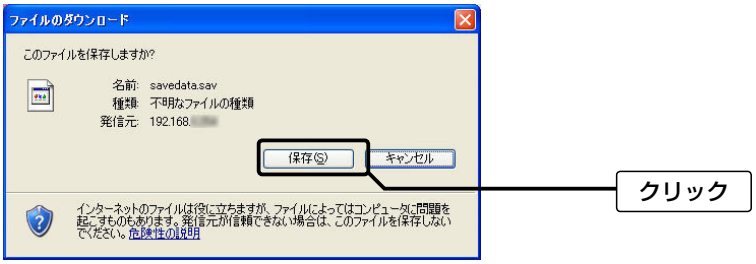
1 本製品の設定画面にアクセス(☞導入編)します。

2 **「メンテナンス」**メニューの**[設定保存]**をクリックします。
「設定保存」画面を表示します。

3 [設定の保存と書き込み]項目の[ファイルに保存する]欄から**〈保存〉**をクリックします。
「ファイルのダウンロード」画面を別画面で表示します。



4 **〈保存(S)〉**をクリックします。
「名前を付けて保存」画面(☞P42)を別画面で表示します。

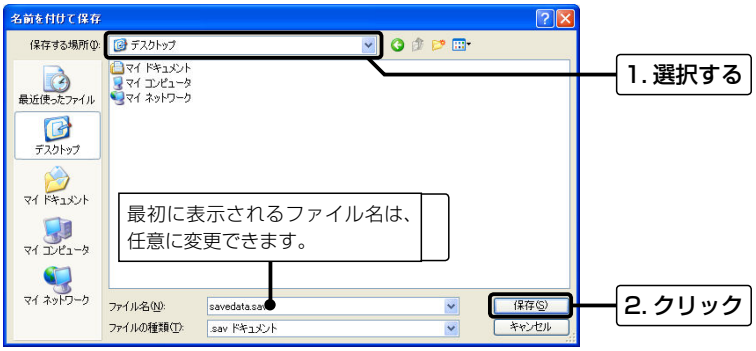


6 ご参考に

2. 設定内容の確認または保存　「メンテナンス」ー**「設定保存」**

■設定内容を保存する

5 **[保存する場所(I)]**を選択して、**〈保存(S)〉**をクリックします。
選択した場所に、設定ファイル(拡張子：.sav)が保存されます。



【設定内容を直接削ったり書き替えたりして保存するには】
[現在の設定]項目に表示される内容を、直接削ったり書き替えたりしても、保存される設定ファイルには反映されません。
内容を直接削ったり書き替えたりした場合は、[ファイルに保存]をクリックする前に、[現在の設定の確認]項目の〈本体に登録〉をクリックして、その内容を本製品に反映させてから保存してください。

3. 設定ファイルの内容を書き込むには

「メンテナンス」ー**「設定保存」**

保存した設定ファイル(☞P41)を本製品に書き込みできます。

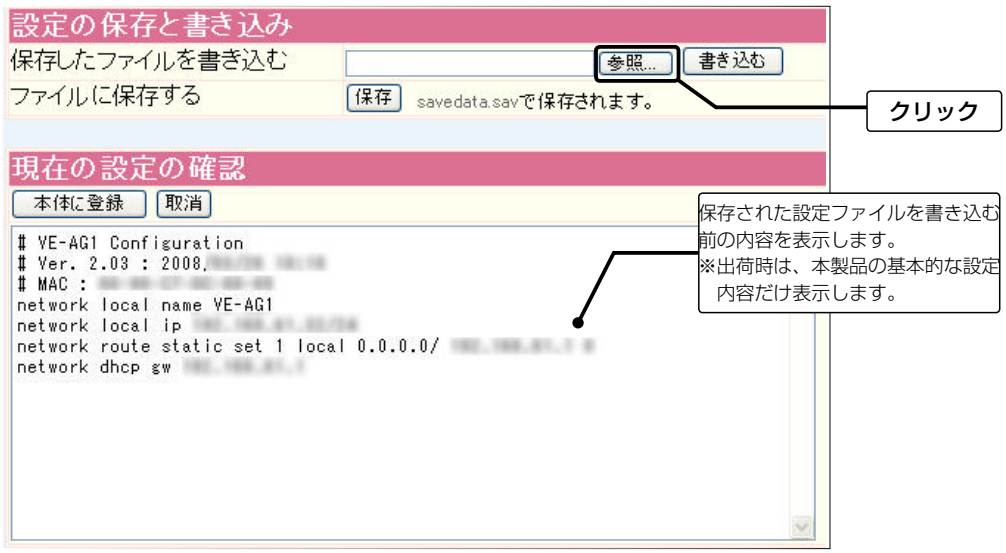
■ファイルを書き込む

設定ファイルを書き込む前に、ほかのパソコンが本製品と通信していないことをご確認ください。

1 本製品の設定画面にアクセス(☞導入編)します。

2 **「メンテナンス」**メニューの**[設定保存]**をクリックします。
「設定保存」画面を表示します。

3 設定ファイルへのリンク先を指定するため、**〈参照...〉**をクリックします。
「ファイルの選択」画面を別画面で表示します。



4 保存された**設定ファイルを指定**して、**〈開く(O)〉**をクリックします。
「保存したファイルを書き込む」欄のテキストボックスに、保存先が表示されます。

5 [設定の保存と書き込み]項目の**〈書き込む〉**をクリックします。
設定ファイルの内容を本製品に書き込みます。

6 書き込み後、**開いている設定画面を閉じて、新たに設定画面にアクセス**しなおします。
※現在開いている画面の状態では、書き込んだ設定ファイルの内容に反映されません。

4. 設定を出荷時の状態に戻す

「メンテナンス」ー**「設定初期化」**

本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻します。

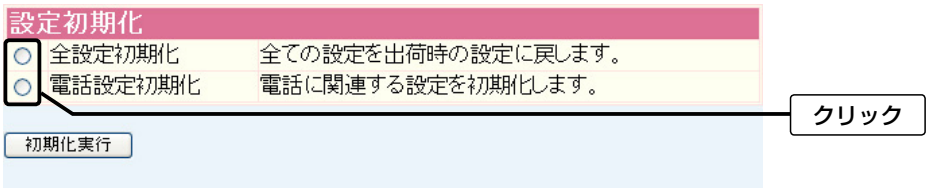
■初期化のしかた

IPアドレスが不明な場合の初期化については、別紙の「ご注意と保守について」をご覧ください。

1 本製品の設定画面にアクセス(☞導入編)します。

2 **「メンテナンス」**メニューの**[設定初期化]**をクリックします。
「設定初期化」画面を表示します。

3 初期化したい条件に該当するラジオボタンをクリックします。



4 **〈初期化実行〉**をクリックします。
選択した項目を出荷時の状態に戻して、「電話設定」画面表示に戻ります。

【ご参考に】

全設定初期化を選択した場合

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。
初期化を実行すると、「192.168.0.1(出荷時の設定)」で動作します。
初期化によって、パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部が本製品と異なったときは、アクセスできなくなりますので、必要に応じてパソコンのIPアドレスを変更してください。

電話設定初期化を選択した場合

「電話設定」メニューにあるすべての内容を出荷時の状態に戻します。

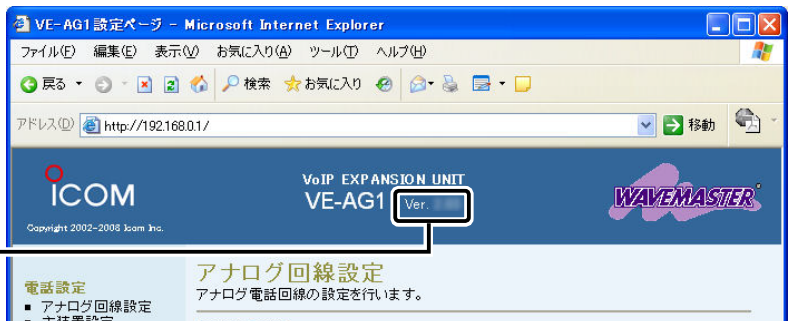
5. ファームウェアをバージョンアップする

「メンテナンス」ー**「ファームウェアの更新」**

本製品の設定画面からバージョンアップできます。

■ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。
このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップされることがあります。
バージョンアップの作業をする前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。
バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。



バージョン情報

■バージョンアップについてのご注意

◎ファームウェアの更新中は、本製品の電源を切らないでください。
更新中に電源を切ると、動作しなくなるおそれがありますので、更新後、自動的に再起動するまでそのままの状態でお待ちください。

◎Windows Vista/Windows XPやウィルス対策ソフト、またはインターネットセキュリティソフトをご使用の場合、それらのファイアウォール機能を無効にしてください。
ファイアウォール機能が動作していると、バージョンアップ用ファームウェアファイル転送時、転送が阻止されることがあります。

◆バージョンアップの結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を開始してください。
本製品の設定ファイルや弊社ホームページ(http://www.icom.co.jp/)より提供されるバージョンアップ用ファームウェアファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

5. ファームウェアをバージョンアップする　「メンテナンス」ー**「ファームウェアの更新」**

■ファームウェアファイルを指定して更新する

バージョンアップの前に、現在の設定ファイルの保存(☞P41)をおすすめします。

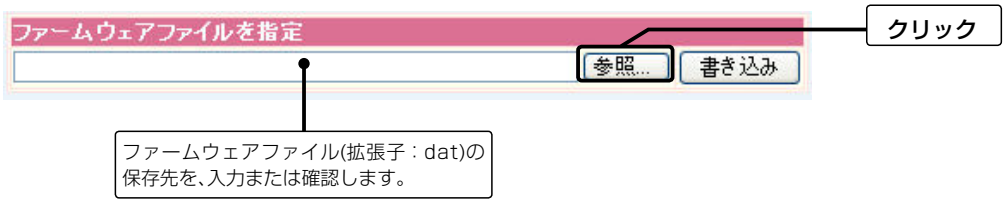
※バージョンアップ後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードのときは、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

1 本製品の設定画面にアクセス(☞導入編)します。

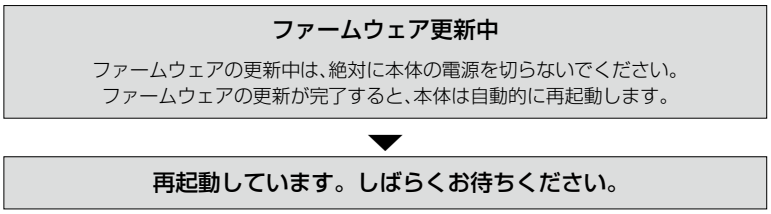
2 **「メンテナンス」**メニューをクリックします。
「ファームウェアファイルの指定」画面を表示します。

3 弊社ホームページよりダウンロードしたファームウェアファイル(拡張子：dat)の保存先を、次のどちらかの方法で指定します。

- [ファームウェアファイルを指定]項目のテキストボックスに直接入力する
- 〈参照...〉をクリックして指定する



4 **〈書き込み〉**をクリックします。
メッセージを表示後、ファームウェアの更新が完了すると、「電話設定」画面表示に戻ります。



【ご注意】

本製品が自動的に再起動されて設定画面を表示するまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。
途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。

【出荷時の設定内容に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合】

自動的に再起動後、設定画面に戻れませんので、接続する端末のIPアドレスを「例：192.168.0.10」に設定してから、本製品の設定画面にアクセスしなおしてください。

【バージョンアップにかかる時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動が完了するまでの時間の目安です。

●転　送＝30～60秒　●再起動＝約10秒

6. 設定項目の初期値一覧

本製品の設定画面について、設定項目の初期値です。

「電話設定」メニュー

「アナログ回線設定」画面

回線設定

- 回線種別：自動
- 電話回線音量(受話音量/送話音量)：大(標準)

エコーキャンセラーの設定

- エコーキャンセラーを使用：する(最適化自動)

「主装置設定」画面

主装置設定

- SIP 183対応：しない

「VoIP詳細設定」画面

VoIP音質設定

- 音声符号化方式：両方使用(G.711を優先)
- フレーム時間(G.711/G.729)：20ms
- 受信バッファ：50ms

TOS設定

- TOS種別：使用しない

「ネットワーク設定」メニュー

「本体IP設定」画面

本体名称/IPアドレス設定

- 本体名称：VE-AG1
- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

「システム設定」メニュー

「時計設定」画面

内部時計設定

- 本体の時刻：2003年01月01日00時00分

自動時計設定

- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1　IPアドレス：133.100.9.2
- アクセス時間間隔：1(日)

「SYSLOG設定」画面

SYSLOG設定

- DEBUGを使用：しない
- INFOを使用：しない
- NOTICEを使用：する
- ファシリティ：1

「SNMP設定」画面

SNMP設定

- SNMPを使用：する
- コミュニティID(GET)：public
- コミュニティID(SET)：private

7. 設定画面について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成です。

■設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される設定項目です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
電話設定	アナログ回線設定	回線設定
		エコーキャンセラーの設定
	主装置設定	主装置設定
	VoIP詳細設定	VoIP音質設定
		TOS設定
ネットワーク設定	本体IP設定	本体名称/IPアドレス設定
システム設定	本体管理設定	管理者ID設定
		管理者IPアドレス
	時計設定	内部時計設定
		自動時計設定
	SYSLOG設定	SYSLOG設定
	SNMP設定	SNMP設定
情報表示	電話通信記録	電話通信記録
メンテナンス	ファームウェアの更新	ファームウェアファイルを指定
	設定初期化	設定初期化
	設定保存	設定の保存と書き込み
		現在の設定の確認

8. Telnetによる接続

Telnetでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■Windows 2000/XPの場合

①Windowsを起動します。
②[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
　名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
　Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
④[User]と[Password]が要求されます。
　本製品の「本体管理設定」画面(☞3章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
　※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんので、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑤ログインメッセージ(Welcome to VE-AG1!)が表示されます。

■Windows 98/98 SE/Meの場合

①Windowsを起動します。
②[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
　名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
④[接続]ダイアログボックスが表示されます。
　ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉をクリックします。
　ホスト名　　：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
　ポート　　：telnet(23)
　ターミナルの種類：vt100
⑤[User]と[Password]が要求されます。
　本製品の「本体管理設定」画面(☞3章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
　※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんので、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑥ログインメッセージ(Welcome to VE-AG1!)が表示されます。

【Windows Vistaをご使用の場合は】
「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」から、[Telnetクライアント]を有効にすると、上記の「Windows XP/2000の場合」と同じ手順で使用できます。

8. Telnetによる接続

■オンラインヘルプ

オンラインで、コマンドリファレンスを参照できます。

◎ **コマンド一覧** …… [Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

◎ **コマンドヘルプ** …… コマンドの意味を知りたいときは、コマンド名の入力につづいて、[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

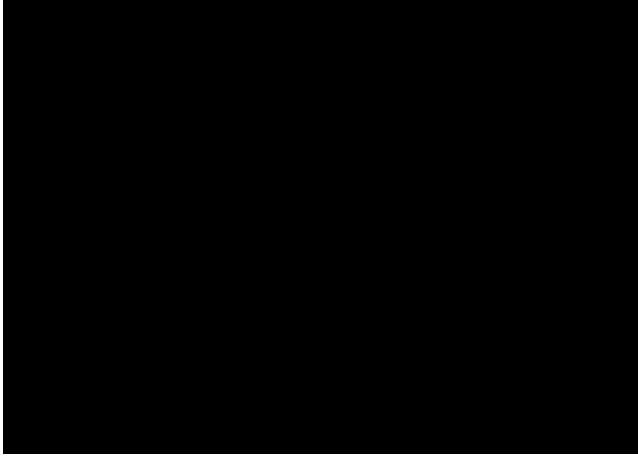
◎ **コマンド名の補完** …… コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。
例) cl[Tab]→clear
複数のコマンドがあるときは、コマンドの候補を表示します。
例) s[Tab]→save　system

MEMO

MEMO

MEMO

高品質がテーマです。



アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A-6551-2J-①a © 2006–2009 Icom Inc.